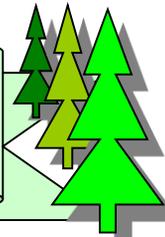




街路樹



「国語科の授業改善の視点と実践例紹介」



困難な事案こそ早期に情報共有を!

ICTを活用した国語科の授業

令和3年度調査研究委員会国語部会では、ICTを活用した授業の実践にも取り組みました。一部を紹介いたします。

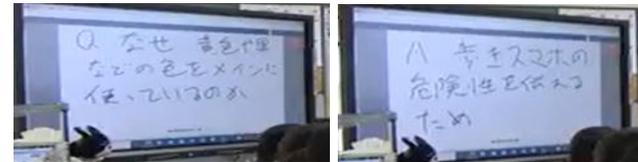
小学校6年「『鳥獣戯画』を読む」光村図書p141



絵と文章を照らし合わせながら、絵についての評価と絵巻物についての評価を読み取りました。また、児童は、教科書以外の鳥獣戯画の場面について紹介する文章を、筆者の書き方の工夫を生かしながら、タブレットで入力することができていました。

中学校3年「多角的に分析して書こう」光村図書p130

説得力のある批評文を書くため、多角的に分析できるよう、ミライシードのオクリンクを活用しました。下の写真は、ポスターの色彩について問いを立て、自分なりの答えを導き出している様子です。



2つの授業例ともタブレット等を利用することで、他の児童生徒の考えを共有し、教師がおさえたい観点到着目させることができました。

○授業の動画はこちら

FCSアカウントより、GoogleClassroomのアプリをクリック

「令和3年度調査研究委員 実践研究」からご覧ください

○単元構想シート・学習指導案はこちら

FCS教職員PCより、Kドライブ「01教育研究発表会」→「令和3年度」

近年、福島県においても虐待に関する相談件数が増えています。昨年度公表された、令和2年度の福島県児童相談所の虐待相談対応件数は1871件で、心理的虐待の割合が過去最多の67%にのぼっています。先日、当センターにおいて「虐待への対応」をテーマに、市内の警察署、地区保健福祉センター等、教育相談関係者30名ほどが参集して、「教育相談・いわきネットワーク会議」が開催されました。グループ協議では、虐待が疑わしい案件において「**まず関係機関で情報を共有する**」大切さが挙げられました。具体的には、学校が問題に気付いた時点で、地区保健福祉センターの相談担当や児童相談所等に今後の対応を相談します。早期の相談により、関係各所の役割分担や対応策を検討することが可能となり、重大事案を防ぐ環境調整や児童生徒の保護につながります。

また、虐待の背景の一つに発達障がいとの関係も指摘されています。障がいを本人だけの問題とするのではなく「①日頃から保護者や児童生徒本人との関係作りを心がけ」「②虐待にならない、2次被害を起こさない環境を調整していくこと」が子どもを守り、よりよい将来へ導くことにつながります。

◇◆下記の文献もご覧ください◆◇

「保育従事者・教職員向けの児童虐待対応の手引き」福島県、2019



「虐待と生徒指導・特別支援教育」文科省、2012



「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」文科省、2020



「初任者研修・新規採用養護教諭研修」〈一般研修②〉より



今年度いわき市教育委員会が実施する初任者研修の対象者は、小学校46名、中学校22名、新規採用養護教諭研修の対象者は小学校3名の計71名です。

5月12日(木)には、初任者研修・新規採用養護教諭研修〈一般研修②〉をいわき海浜自然の家で行いました。

午前中は、日常の学校という環境から離れ、海浜オリエンテーリングをしながら、自然の中を散策したり、同じ初任者としての立場で語り合ったりすることを通して、教職に対するモチベーションを高めている姿が多く見られました。

午後は、平第一小学校の高野校長先生より「初任者・新規採用者に望むこと」について、講話をいただきました。初任者からは「自分の強みを見つけるために様々な教科について勉強していきたい」「具体的な指示・発問をすることで、生徒がよく理解し行動できるようにしていきたい」などの感想があり、教師としての責任の大きさを実感していました。

また、協議では、今の自分の状況を見つめるとともに、同じ課題や悩みをもった仲間がいること、その解決に向けて努力していることなどを共有できていたようです。感想からも協議の時間が研修者にとって有意義であったことが伺えました。

コロナ禍により、学校ならびに研修者にはご負担をおかけしておりますが、今後もご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

〈主な研修内容〉

【午前】

海浜オリエンテーリング

【午後】

講話「初任者・新規採用者に望むこと」

協議「1ヶ月間の勤務を通して」

